

第五次板橋区地域福祉活動計画  
いたばし福祉の森 2026-2030

〈 中間まとめ（案） 〉

令和 7 年 12 月

いたばし福祉の森推進委員会  
社会福祉法人 板橋区社会福祉協議会

# 目 次

I. 第五次板橋区地域福祉活動計画の基本的な考え方 ・・・ p. 1

II. 第五次板橋区地域福祉活動計画の背景 ・・・・・・・・ p. 2

III. 第五次板橋区地域福祉活動計画の方向性と内容 ・・・ p. 9

## <資料編>

IV. いたばし福祉でまちづくりアンケート調査 結果報告 ・・・ p. 18

V. ちいきのためのお話会 結果報告 ・・・・・・・・ p. 31

VI. いたばし福祉の森推進委員・事務局名簿 ・・・・・・・・ p. 53

# I. 第五次板橋区地域福祉活動計画の基本的な考え方

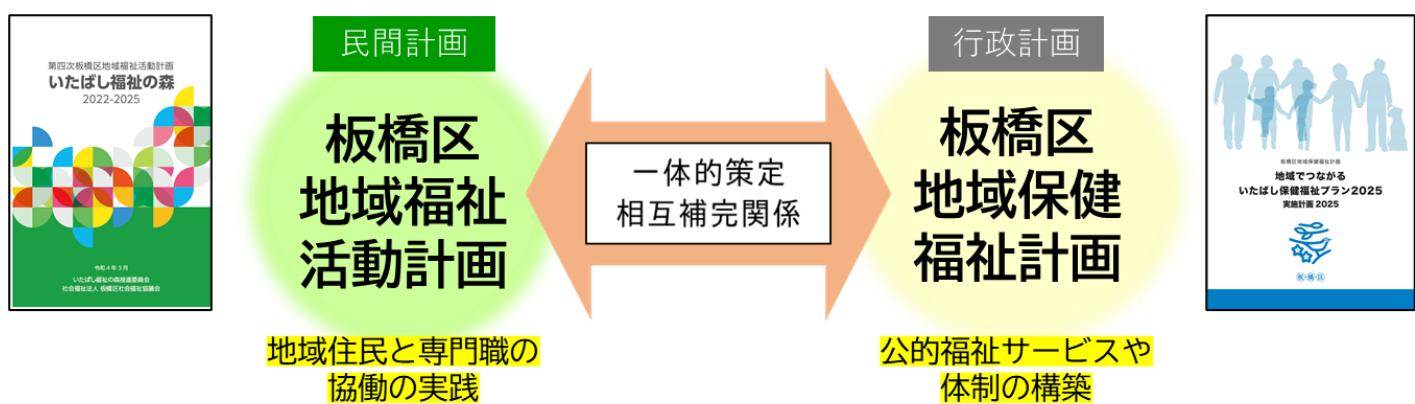
## 1. 計画の目的

板橋区地域福祉活動計画（以下、「活動計画」という。）は、板橋区社会福祉協議会（以下、「いたばし社協」という。）が、住民や地域で社会福祉に関わる活動を行う方、社会福祉に関わる事業を行う方に呼びかけて、相互に協力して策定する、「地域福祉の推進」を目的とした民間の活動・行動計画です。

この活動計画は、誰もが安心して暮らすことができるよう、地域での支え合いの仕組みを作り、地域課題を幅広く取り上げ、その課題に住民や専門職などがどのように関わり解決していくか、また、いたばし社協がそれをどう支援・応援していくかをまとめ、地域福祉活動を体系的・計画的に実践・推進することを目的としています。

## 2. 計画の位置づけ

活動計画は、板橋区が策定する「板橋区地域保健福祉計画」と一体的・相互補完的な役割を担います。両計画に基づき、「誰もが安心して暮らすことができる」まちづくりを進めます。



## 3. 計画期間

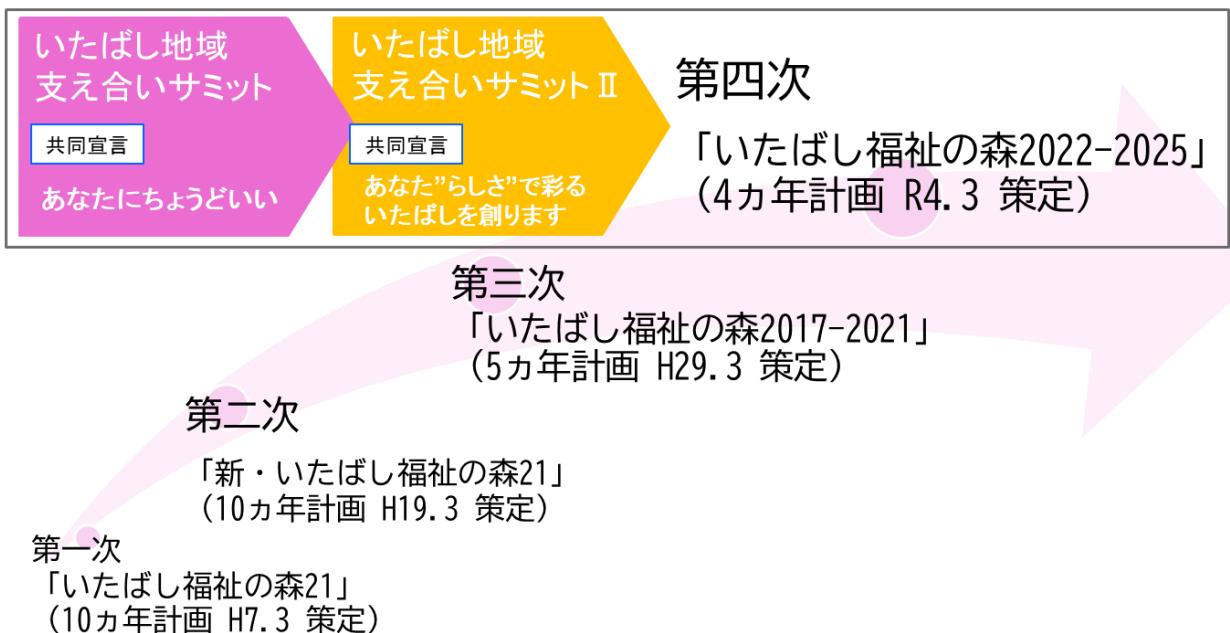
本計画の期間は5年間（2026-2030）とします。

計画	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
地域福祉推進戦略（板橋社協）		第一次		第二次			推進戦略2025					推進戦略2030（仮）				
地域福祉活動計画（福祉の森）		第二次		第三次		一 体 的 策 定		第四次				第五次				
地域保健福祉計画（板橋区）		実施計画2018		実施計画2021			実施計画2025					第四次板橋区地域保健福祉計画				

## II. 第五次板橋区地域福祉活動計画の背景

### 4. これまでの活動計画

#### (1) 板橋区地域福祉活動計画の沿革



#### 『福祉の森』ってなーに？

平成7年3月に第一次板橋区地域福祉活動計画(いたばし福祉の森21)が策定されました。策定を担当した故 木谷宣弘(きたに よしひろ)板橋区地域福祉活動計画策定委員長は「森のように多種の草木、昆虫、動物、鳥類などが共生する生態系をモデルにして『混在から共生』へと質的転換を図る必要がある」と述べ、地域住民や団体、関係機関、企業などが互いに支え合い、地域で共生するまちづくりを提唱されました。

#### (2) 第四次板橋区地域福祉活動計画（いたばし福祉の森 2022-2025）

第四次板橋区地域福祉活動計画はコロナ禍の最中に策定されたものでした。感染対策により地域のつながりが分断され危機的状況にあったなか、新しい生活様式を踏まえた地域の支え合いのあり方を模索するため、2年に渡り「いたばし地域支え合いサミット」を開催しました。

それぞれで採択された共同宣言「あなたにちょうどいい～あなた“らしさ”で彩るいたばしを創ります～」は計画の基本理念となり、一人ひとりが幸せを感じられる「あなたにちょうどいい」社会を創っていくこうという想いが込められました。そして、立場や状況が異なる人たちが心地よくつながり、それぞれの「できること」を分け合い、それぞれの「むずかしい」を解決することで、あなた“らしさ”が豊かな森の彩りのように映える地域づくりを進めてきました。

## 【第四次板橋区地域福祉活動計画の体系図】

### 基本理念 (地域共生社会の実現／包括的な支援体制の構築)

あなたにちょうどいい～あなた“らしさ”で彩るいたばしを創ります～

立場や状況が異なる人たちが心地よくつながり、それぞれの「できること」を分け合い、それぞれの「むずかしい」を解決することで、あなた“らしさ”が豊かな森の彩りのように映える地域づくりを進めます。

立場や状況が異なる人たちが  
心地よくつながる

### 基本目標1 (地域づくりに向けた支援)

気づきあう人と機会を増やし、  
心地よくつながる

#### 基本的方向1

日常で見守る 気軽に関わる 地域で暮らす

- ・ゆるやかなつながりを広げる
- ・身近に相談できる人と機会を増やす
- ・地域で受け止め、つなぐ仕組みを広げる
- ・地域をつなぐキーパーソンを増やす

見守り・アウトリーチ

#### 基本的方向2

混ざってつながる むらしでつながる スキルでつながる

- ・今ある協議の場や会議体を活用する
- ・イベント、イベントスペースを活用する
- ・地域の人と得意なことや興味・関心でつながる
- ・オンラインSNSを活用し、情報交流発信する

協議の場・ネットワーク  
コレクティブラロード

#### 基本的方向3

気づいた変化や地域課題に向き合う 地域で取組む

- ・見守るしくみを広げる
- ・「これならできる」「やってみたい」といった  
“思い”を“カタチ”にする
- ・必要な人へ情報を届ける

情報共有・小地域活動

### 基本目標2 (相談支援)

みんなの「できること」を集め、  
切れ目なく適切につながる

多機関協働  
地域と専門職の連携

#### 基本的方向1

気づきから専門相談へ 困難な課題を受け止める  
地域で受け入れる仕組みをつくる

- ・課題解決に向けてつながる
- ・再発防止に向けてつながる
- ・連携して支援する
- ・権利擁護の仕組みを強化する

#### 基本的方向2

災害へ備える専門職と地域の連携

- ・災害時に配慮が必要な方への支援を推進する
- ・専門職と地域の連携を強化する・防災への意識向上を図る

包括的な相談支援体制

### 基本目標3 (参加支援)

一人ひとりの多様性を認めあい、  
あなたらしいられる場を増やしてつながる

あなた“らしさ”が  
映える地域づくり

C SW

支え合い拠点

#### 基本的方向1

人・場所・資源をシェアする

- ・世代や分野を超えたつながりをつくる
- ・集まれる場、活動できる場をつくる
- ・支える・支えられるの枠を超えて「できること」を交換する

#### 基本的方向2

自身も他者もまるごと受容し、自分らしさを発揮する

- ・価値観を受容する
- ・まるごとを包摂する
- ・自分らしさが発揮できる仕組みを広げる

## 5. 第四次板橋区地域福祉活動計画の取組み評価

第四次板橋区地域福祉活動計画の取組み評価として、3つの基本目標と、基本目標を達成するために定めた7つの基本的方向について、令和7年度第2回いたばし福祉の森推進委員会において評価を行いました。次頁以降に、それぞれについての総評と課題をまとめます。

# 地域づくりに向けた支援の領域

## 基本目標1 気づきあう人と機会を増やし、心地よくつながる

総評 (=成果)	日常生活の中でのゆるやかなつながりや困りごとを受け止める場を着実に増やすことができている。支え合い会議の継続により小圏域での地域課題や強みが明らかになるとともに、共通の興味や関心等でのつながりは新たな層や領域の参画を促進している。また、地域福祉コーディネーターモデル配置地域においては、地域が気づきをキャッチし、地域福祉コーディネーターにつなげるアウトリーチの体制が整備され、協力者の裾野が広がったことで、これまで以上に気づき合い助け合える環境となった。
課題 (今後に向けて)	コミュニティの希薄化や担い手不足への対処としては、多様なつながり方、つながる先をいかに維持・発展させていくかが肝となる。地域福祉コーディネーターと支え合い会議との連携・協働を推進し、今後配置される地域においてもその地域に根差した形で、新旧のつながりを深め、掛け合わせていく。

### 基本的方向1 日常で見守る 気軽に関わる 地域で暮らす

総評 (=成果)	ゆるやかご近助さん、サロン等の記載事業・活動による地域でゆるやかにつながる素地がつくられた。新規事業の「要支援児童等見守り強化事業」では、新たな見守りのカタチを創出し、民生・児童委員、ぬくもりや社福連のほか、ファミサポ援助会員、民間事業所など見守り人材が広がった。
課題 (今後に向けて)	近隣との関係の希薄さ、孤立が深刻化している。ひとりひとりが自分らしく地域とつながるために従来の地域活動の維持だけでなく、多様なつながり方（視点を変える）、つながることができる場（機会）、キーパーソンとなる人材をさらに増やしていくことが必要である。

### 基本的方向2 混ざってつながる 暮らしでつながる スキルでつながる

総評 (=成果)	地域住民、専門職、企業、行政など多様な主体が参画する支え合い会議の継続により、地域ならではの課題や強みが明らかになった。また、ジョブ＆ボラの研究、機材ここピカ事業、ぬくもりチームサポートなど、障がい等あってもスキルを生かせる仕組みづくりを進めた。
課題 (今後に向けて)	やりたい人とやってほしい人、できる事と困り事を効果的につなげる仕組みづくりとして、多様な媒体を駆使して、つながる機会の創出、つながる方法を模索していく必要がある。

### 基本的方向3 気づいた変化や地域課題に向き合う 地域で取組む

総評 (=成果)	孤立しがちな人や気になる世帯への見守り、アウトリーチの仕組みが整ったことで、専門的な支援へつなげる道筋ができた。食品配布会→フードパントリー→食品アクセスネットワークへの展開など、地域課題に次々と関係者が加わることで、より難しい課題へチャレンジできることを証明できた。 地域活動を始める住民や専門職、活動への支援、寄付をする企業など、様々な形でかかわりができ、協力者の裾野が広がった。
課題 (今後に向けて)	地域活動にチャレンジしやすい環境づくりを進めるとともに、地域にかかわる人同士の横のつながり（ネットワーク）をつくり、新旧のつながりを再構築する。主体的で持続可能な仕組みを構築する。

## 相談支援の領域

### 基本目標2 みんなの「できること」を集め、切れ目なく適切につながる

総評 (=成果)	それぞれの「できること」を持ち寄るため、まずはお互いを知る機会は、支え合い会議やその他の制度に基づいた会議等により着実に増えている。個別のケース対応について、地域と専門職とが連携・協働する事例が積み重ねられており、これらは災害時等においても重要なつながりとなることを「災害時にも強い本当のまちづくり」として意識して進めることができた。
課題 (今後に向けて)	個別のケース対応において、地域と専門職が円滑かつ密に連携が図れるためのつなぎ役となるのが地域福祉コーディネーターである。双方が課題や状況に適して役割を発揮できるよう調整するとともに、つなぎが地域生活からの隔離とならないような意識合わせを引き続きしていく。また、防災意識の高まりの次の段階として、災害時等における地域と専門職の相互支援体制について協議・協働していく。

### 基本的方向4 気づきから専門相談へ 困難な課題を受け止める 地域で受け入れる仕組みをつくる

総評 (=成果)	福祉団体、地域住民、民生児童委員、企業、行政など、地域と専門職をつなげる仕組み、協働の仕組みが作られたことにより、潜在的な課題に地域が気付き、専門職が受け止め、協働で伴走型支援をしていくという方向性はできた。
課題 (今後に向けて)	今後はその仕組みを地域の特色に合わせた形で区全域に広げていく必要があり、そのためには、各地域で様々な分野の専門職と地域住民等が互いの理解を深め、地域力のボトムアップにつなげていくことが重要となる。また、様々な媒体を活用して、必要な情報が地域に偏りなく伝わるような働きかけが求められる。

### 基本的方向5 災害へ備える専門職と地域の連携

総評 (=成果)	支え合い会議等での地域防災訓練や防災まち歩き、地域住民を交えた災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施、災害ボランティア養成講座や既存事業で防災講座を開催するなど、住民が主体となって平時からの防災意識を高めていった。また、地域の施設間相互協力や広域での災害時連携など、専門職として非常時を想定した協力体制の強化をおこなった。
課題 (今後に向けて)	近年起きた数多くの災害により、地域も専門職もより防災への意識が高まり、平時の備えは充実してきた。いつ起こるかわからない災害に対し、それぞれが主体となって行う備えを掛け合わせてより強化していく必要がある。また、災害時の情報発信と情報共有は重要であり、地域に正確な情報が行き渡るよう整備する必要がある。

## 参加支援の領域

### 基本目標3 一人ひとりの多様性を認めあい、あなたしくいられる場を増やしてつながる

総評 (=成果)	誰もが役割があり、生きがいを感じられる地域の実現に向け、各事業や取組みを通して、立場の違いや、世代や分野を超えた参加意識の向上が図ってきたことで、既存の資源がゆるやかにつながりつつある。そのような場においては、それぞれの「できること」を持ち寄り、地域で活用することができた。 さらに、地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターの働きかけにより、それぞれに心地よい場やつながり方も多様となり、課題に直面する人たちの参加支援を進めることができた。
課題 (今後に向けて)	それぞれの「できること」の共有を進めていくとともに、従前からの福祉分野に限らない人や分野へのアプローチがより一層必要となる。前提として社協内部の事業間連携を積極的に促進していく。また、ＩＣＴ技術等も活用し、対面でのつながりに限らない多様なつながりのあり方も引き続き模索していくことで、多種多様な「あなたしくいられる場」を増やしていく。

### 基本的方向6 人・場所・資源をシェアする

総評 (=成果)	各事業において、多世代・多分野にわたる参画について意識向上を図ったことにより、既存の地域資源がゆるやかにつながる場が徐々に広がりつつある。また、企業や専門職の社会貢献意欲を高めることで、その人たちが有する周縁の力をシェアし、地域で活用することができた。
課題 (今後に向けて)	地域に潜在する「できること」について情報共有を進めるとともに、社協内部の事業間連携を強化する。あわせて、既存の地域資源の更なる活用のため、ネットワークや担い手づくりを推進していく。

### 基本的方向7 自身も他者もまるごと受容し、自分らしさを発揮する

総評 (=成果)	社会福祉大会をはじめとする事業を通じて地域共生社会の実現を推進し、子どもから高齢者まで誰もが価値のある担い手として支え合う意識を啓発した。また、地域福祉コーディネーターのモデル配置により、多様化・複合化した課題に直面する人たちの参加支援を進めることができた。
課題 (今後に向けて)	あらゆる人を受け止める参加支援の場を拡大させるためには、福祉に限らない人材、物理的に実在しない場所など、資源発掘のためにあらゆる可能性を探る必要がある。多様な人が参画できる方法を広く展開するため、ICT活用についても検討していく。

## 6. 地域社会を取り巻く状況と計画体系の検討

### (1) 地域社会を取り巻く状況について

#### ○少子高齢化と人口減少が変えるわが国の社会構造

わが国は、急速な少子高齢化と人口減少により社会構造が大きく変化し続けています。内閣府の報告によると、65歳以上の方1人に対する現役世代（15～64歳の方）の方の比率について、昭和25年では12.1人いたのに対し、令和5年では2.0人、令和52年（2070年）では1.3人とされています。財政面からも人手の面からも、社会保障制度等、従前の社会システムをそのままの形では持続していけません。

#### ○つながりが薄れつつある地域社会

一方で、地域の実状を知るために実施したアンケート調査<sup>※1</sup>結果を見ても、「町会・自治会加入率の低下」や、「マンションが増えたことで近所の方が見えない」「年代の異なる人とのつながりが少ない」といった、いわゆるご近所付き合いの減少傾向など地域関係の希薄化が挙げられました。加えて、個々人の社会とのつながり方やライフスタイルの多様化、外国人人口の増加など、地域社会においてお互いに顔の見えにくい傾向が生じています。

#### ○ゆるやかにつながり 支え合う地域づくり

価値観も多様化している現代社会においては、それぞれに合った無理のない形でゆるやかにつながり、それでいて、例えば災害時等みんなで協力することが必要なときには力強く協力し合えるような関係性作りが必要であると考えられます。

#### ○誰もが心地よくつながる地域へ

立場や年代によらず、その人らしく生きがいを持って暮らすなかで、その人にあった方法ができる範囲で心地よくつながり、それぞれの「できること」を分かちあうことを通して、助け合い・支え合いの雰囲気が醸成される地域づくりが求められています。

### (2) 計画の体系について

#### ○地域共生社会の実現に向けた国の動向と第四次板橋区地域福祉活動計画

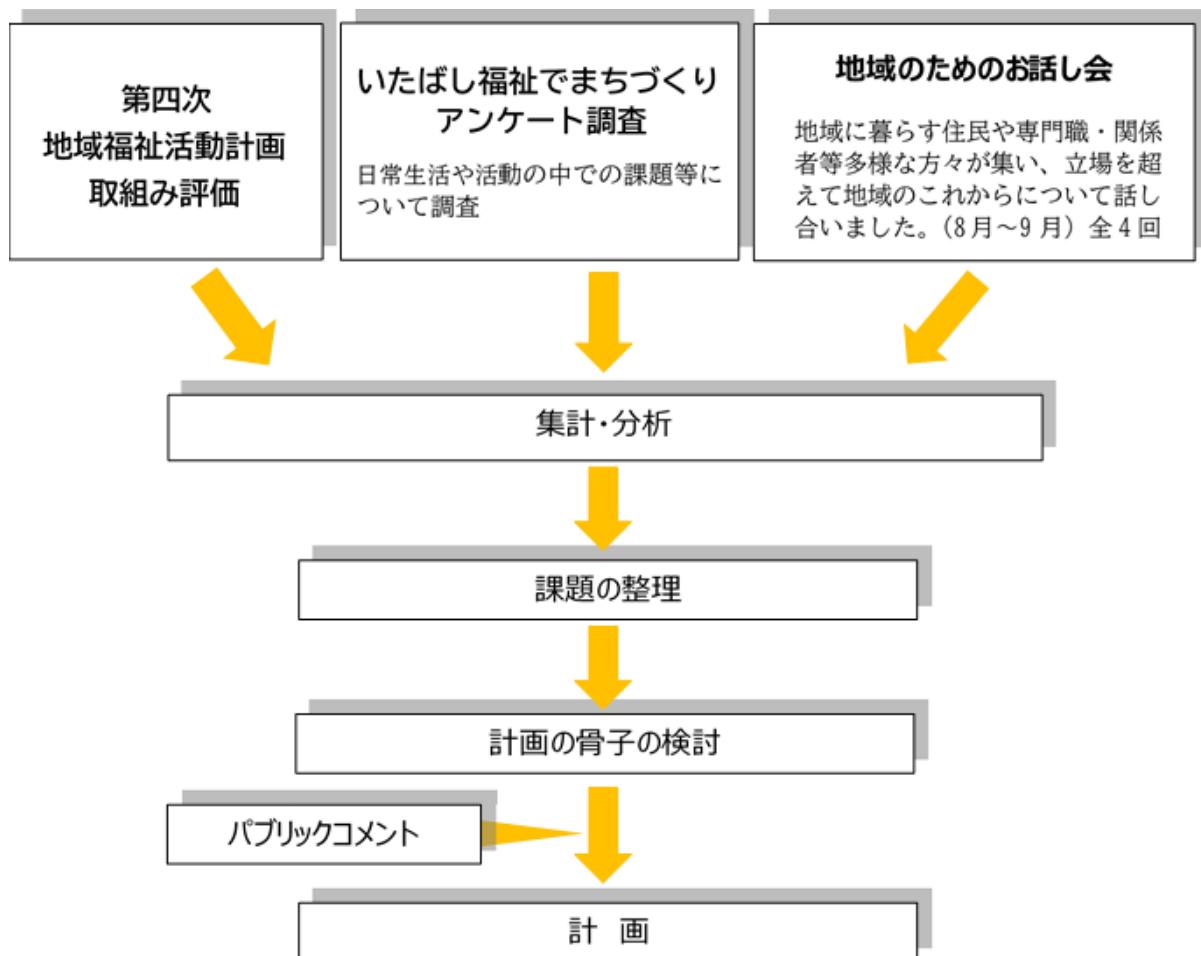
地域共生社会の実現に向け、国は平成29年に社会福祉法を改正し、この中で地域福祉の推進の理念を明確化（第4条第2項）するとともに、包括的な支援体制の構築を規定（第106条の3）しました。さらに、この包括的な支援体制の構築に向けた具体的な方策として、令和2年の社会福祉法改正において、「重層的支援体制整備事業」が新たに創設（第106条の4）されました。

このような国の動向を受けて、第四次板橋区地域福祉活動計画（いたばし福祉の森2022-2025）では、計画の基本理念を実現するための体系として、この重層的支援体制整備事業の考え方に基づく3つの支援領域（地域づくりに向けた支援・相談支援・参加支援）に沿って基本目標を定めました。

上述した大きな流れがあること、そして地域福祉の両輪として位置付けられた「板橋区地域保健福祉計画2030」が、板橋区重層的支援体制整備事業実施計画を包含していることから、第五次板橋区地域福祉活動計画の体系についても、引き続きこの3つの支援領域に基づき定めることとします。

<sup>※1</sup> いたばし福祉でまちづくりアンケート R7.7.15～R7.8.15の期間で実施。詳細はp.18以降参照。

## 7. 第五次板橋区地域福祉活動計画策定の流れ



### III. 第五次板橋区地域福祉活動計画の方向性と内容

#### 8. 第五次活動計画の方向性

## あなたにちょうどいい できることを分かちあう ともに暮らすまち いたばし

##### (1) 基本理念について

本計画の基本理念は、令和7年11月18日に実施した「いたばし地域支え合いサミットⅢ」において、参加いただいた地域の皆さんと採択された共同宣言です。

前期の計画である第四次板橋区地域福祉活動計画では、社会のなかで不安感、閉塞感が大きかったコロナ禍のなかにあって、あなたしさを色に見立て、つながり、それらが豊かな彩りとなるような地域づくりを目指し、みんなそのまで、ありのまでいいんです、というコンセプトを掲げました。

本計画ではそこから一步進んで、一人ひとりの持っている強みや魅力、「できること」をシェアリングする（分かちあう）ことが重要だと考えました。

たとえどんなに小さなことでも、それはあなたにしかできない、あなたの「できること」-----それらを持ち寄り、紡いでいくことで輪となり、きっと誰かの支えに、力になれると思います。

この板橋というまちで、温かい支え合いの輪が広がっていきますように・・・この基本理念には、そんな願いが込められています。

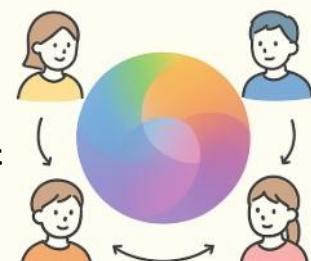
##### (2) 第四次板橋区地域福祉活動計画からのステップアップについて

### 第四次

#### 基本理念

## あなたに ちょうどいい あなた “らしさ” で彩るいたばしを創ります

- 地域はコロナ禍真っ只中、つながりに大きな影響あり
- それを認めあい、あなたしくいられることを応援
- あなたしさを色に見立て、豊かな彩りとなる地域を目指した



### 第五次

#### 基本理念

## あなたに ちょうどいい できることを分かちあう ともに暮らすまち いたばし

- 地域活動が戻り、新しい地域の盛り上がりが生まれている
- 企業等をはじめとした様々な新しいつながりが広がっている
- それが持つ強みや魅力を分かちあい、支え合う

## できることシェアリング



### (3) 基本目標について

基本理念を実現するため、3つの支援領域（地域づくりに向けた支援の領域・相談支援の領域・参加支援の領域）における取組みが相互に関係しあうことで、誰も取り残さない「包括的な支援体制」を構築します。この支援領域ごとに基本目標を定めます。

基本目標1

地域づくりに向けた支援の領域

声をかけあい

つながりの輪を広げよう

基本目標2

相談支援の領域

つながりから困りごとに

気づき・受け止め 解決しよう

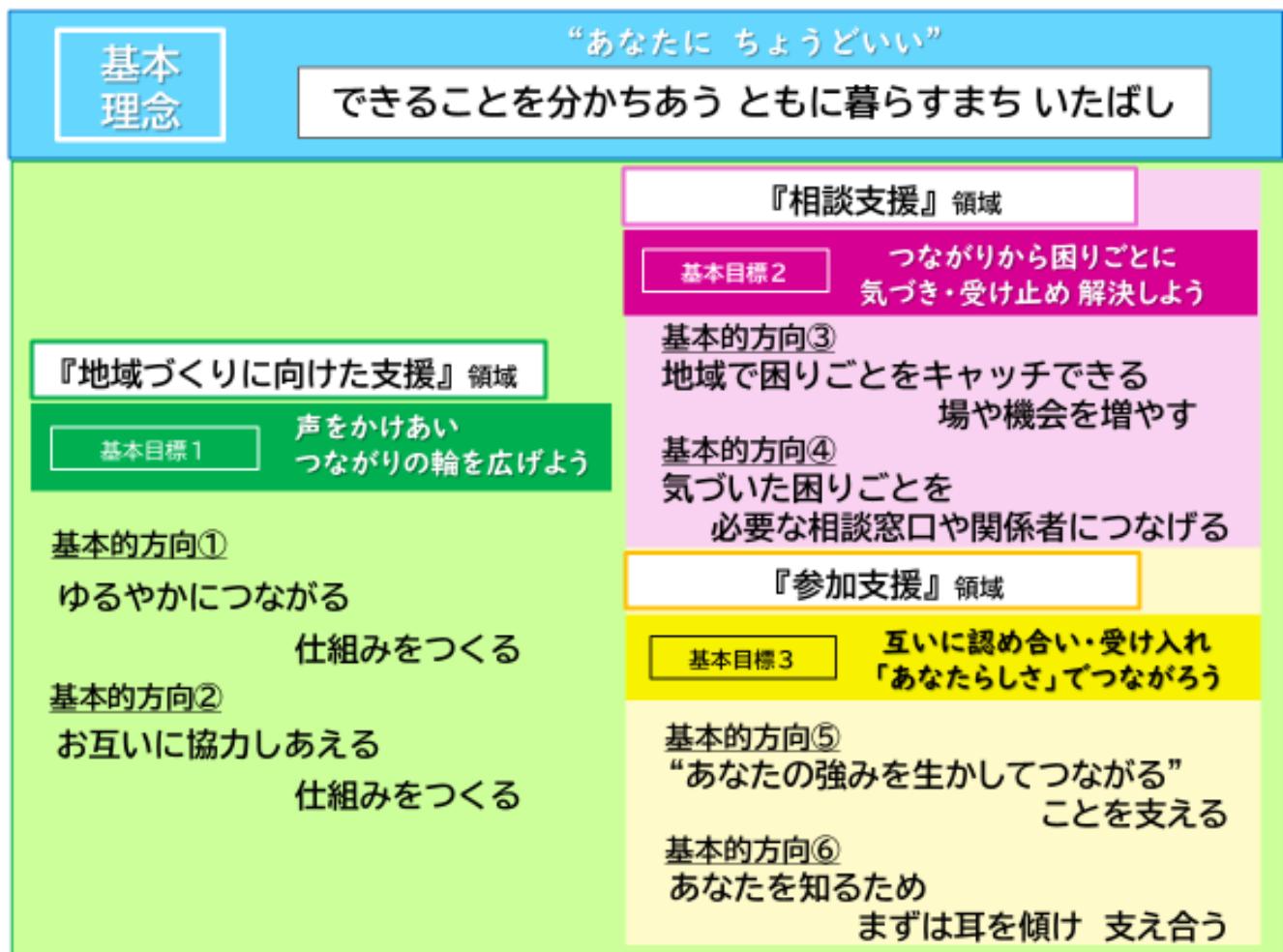
基本目標3

参加支援の領域

互いに認め合い・受け入れ

「あなたらしさ」でつながろう

<計画の体系図イメージ>

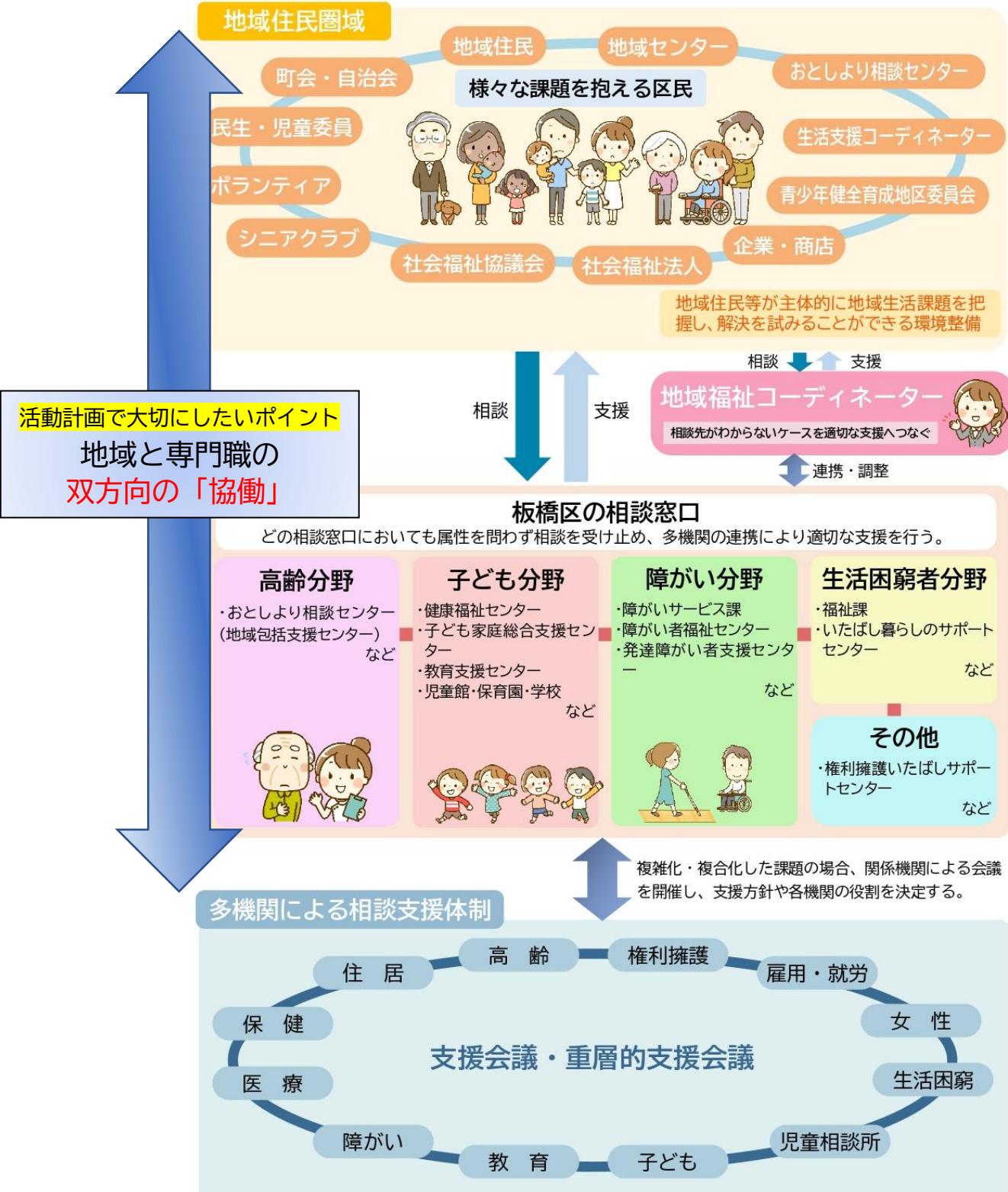


### (3) 板橋区版包括的な支援体制の構築について

板橋区地域保健福祉計画2030の基本目標1「地域で安心して暮らせる環境を整備します。」の【施策1 包括的な相談支援体制の構築】のなかで、板橋区における包括的な相談支援の推進について体系化されています。(※下記、イメージ図参照)

地域福祉推進の両輪の関係となる両計画が一体となってこの体制を構築することが重要であり、第五次板橋区地域福祉活動計画では、特に地域住民圏域(図の上部)での支え合いのネットワーク等を生かした、具体的な実践面・活動面から考えていきます。

板橋区版包括的な相談支援体制のイメージ図



## 9. 第五次活動計画の内容

### 『地域づくりに向けた支援』領域

#### (I) 基本目標 「声をかけあい つながりの輪を広げよう」

人と人とのつながりは、全ての基本となります。お声掛けは、「あなたのことを気に掛けています」という心のメッセージ。まずはなにげないやり取りからはじまり、知り合い、わかり合い、温かいつながりの輪が広がっていくような地域を目指します。

##### ◆基本的方向①「ゆるやかにつながる仕組みをつくる」

☆こんな声がありました☆

あつたらいいな・不足・課題
地域との繋がりが希薄となっていること
今の時代どの様に手を出したら声をかけて良いのかわからない
家族や近所の付き合いが希薄であり、困ったことがあるとちょっとした助けが受けられない
助けを求める人がいるが、人間1人では生きていけないと思っている。ちょっとした助けを借りて安心して生活できるようにしてほしい
年代が違う人とのつながりが少なく感じている
転居してきた方との繋がりがない
孤独・孤立の見守りの輪が広がるといいと思う
孤独死がなくなるような近所付き合い
色々な人と無理のない友好関係を作っていきたい
声掛けしているが外国人の方には通じないこともある
わかりやすい情報や利用しやすい情報のパンフやチラシを配布するなど
町会の加入が少なくなり、高齢化している
外国人の方々と一緒に防災イベント

日常生活のなかで、地域とのつながりが希薄化していると感じている人がいます。誰かとつながりを持ちたいけど、どうしたらしいのかわからないと感じている人がいます。一方で、ご近所さんとの日常的な関わりは少し億劫だなと思う人もいます。

価値観やライフスタイルが多様な現代において、心地よいと感じるつながり方、つながり具合も人それぞれ。「あなたにちょうどいい」距離感で時代に合った多様なつながりが持てるよう、様々な活動や手段・方法を創り、みんなにちょうどいいつながりを増やしていきましょう。

できること・できていること・強み
まずは挨拶、近所の人との見守り
常に声掛けして温かい心遣いが大切だと思います。寄り添ってあげられる心
朝、小中学生やサラリーマンの方への挨拶・声掛け
家を出てお会いした方々に笑顔で挨拶。地域の公園ではかかわりのある子どもに声をかける
家の周りを掃くときに、地域の人や子どもたちに挨拶をしたり話をしたり
話を聞いてあげること
歳をとってもLINEグループ友人とつながっている
民生児童委員として、見守り活動
コミュニケーションを大切に、自分のことばかりではなく周りが見えるように
犬の散歩のときに日々合う方々に挨拶をしたり、少しでも声掛けしている
子どもたちの笑顔でウォーカラリー、キャンプファイアなど
外国人へのごみの捨て方の説明

## ◆基本的方向②「お互いに協力しあえる仕組みをつくる」

☆こんな声がありました☆

あつたらしいな・不足・課題
近所で気楽に集まれる場所があるといいと思う
カフェや、食堂という形で安心して自分の話を聞いて貰え、食事もできホッとできる場所が地域にあればいいなと思います
無料の集会所があつたらしいな
子どもと大人もごちゃまぜの場を作りたい 昔の遊びなど
子どもを育てるママたちと高齢者の方がお話しできるカフェがあつたらしい
カフェ+居場所作り 地元の大学との連携
町のあちこちにベンチがあつたらしいな
地域のサロンなど、社会資源が横のつながりを作れる場所
誰かに自分のことを話せる場所
助け合いによる防災のあり方とは人と人とのつながり

誰かのためになりたいな、支えになりたいなと思う人がいます。困ったことがあって、誰かに力になって欲しいなと思う人もいます。地域のなかで多様なつながりがあることで、支え合い、協力し合える関係性が広がっていきます。この関係性は、場面が変われば「支え手」と「受け手」が変わるかもしれません。困ったときはお互い様と思えるつながりがたくさんある地域は素敵ですね。

日常的に協力し合える関係性は、災害時など非日常においてもとても重要です。いざという時にも、お互いに助け合える温かい地域をみんなで一緒に創っていきましょう。

### できること・できていること・強み

子ども食堂、多世代居場所、誰でも食堂
シニアの会で孤独にならない楽しさ満載の触れあう、場所づくり
廃校になった学校の利活用（小学校）
地域の居場所に飲食店を利用（ほっこりなりりん）
自宅を開放して誰でも立ち寄れるサロンで交流している
誰でも集まれる場所
地域の子どもや大人が気軽に交流できる場所
移動スーパー、キッチンカー、子ども食堂など、場所貸し
自宅を開放して誰でも立ち寄れるサロン
高齢者のための健康教室、散歩の会、遊び場(支え合い桜川で運営)

## ◆基本目標1における【活動主体ごとの取組み】について

地域で取組めること (例)	専門職・企業・団体が 取組むこと(例)	社協が取組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理のない範囲で、まずはあいさつや声かけから小さくつながる</li> <li>・見守り合う、気にかけ合うなど、日常的なつながりを育む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を支援するための資源提供（場所、人、設備など）</li> <li>・日頃から地域と関わる場や機会に参加し、地域と交流する</li> <li>・地域の実状や課題を知り、できることを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の皆さんのが集まる交流・話し合いの場や機会の仕組みづくりや、運営支援・活動支援</li> <li>・様々な立場の人・団体・地域資源をつなぐネットワークづくりと調整</li> <li>・交流の場や機会の情報の発信</li> </ul>

## 『相談支援』領域

### (2) 基本目標2 「つながりから困りごとに気づき・受け止め 解決しよう」

地域での多様なつながりは、困りごとや悩み、課題を抱えた人に気づくアンテナにもなります。状況に応じて早い段階で適切な相談窓口や関係者につながる地域は誰にとっても安心です。さらに、解決に至ったあとにもゆるやかにつながりが続くような温かい地域を目指します。

#### ◆基本的方向③「地域で困りごとをキャッチできる場や機会を増やす」

☆こんな声がありました☆

あつたらいいな・不足・課題
気軽に相談できる関係性が築ける場
専門職と地域をつなぐ。筋トレできる場とか欲しい
暮らしの保健室のような地域の方が誰でも立ち寄れ、専門職の方に相談できる場
専門職と地域の方との交流の場
困っているという声が聴きづらいような社会になっている気がするのが困りごとといえば困りごとです
生活や子育てなど、相談窓口がわからない
不安なことや何か困り事をいつでも相談できる場所
介護・医療の相談がいつでもできるたまり場
地域資源(学校、銀行、公民館)などで相談できる場があるといい
出向く相談室の拡充

地域のなかで多様なつながりがあることで、日常生活でのささいな変化やちょっとした悩みやお困りごとに気づき、深刻な状況になる前に手を打つことができるかもしれません。もしかしたら自分でも気がつかないうちに起こりうるリスクに周りの方が気づいてくれるかもしれません。

誰かに話を聞いて欲しいときに聞いてもらえる関係性は、心を少し軽くし、明るい気持ちとやさしい気持ちの素になります。そんなつながりが持てる場や機会をたくさん創っていきましょう。

できること・できていること・強み
つながり隊や関係機関への連絡や情報共有
子育てについての悩みや育児についてのアドバイス
皆の農園で認知症の方々が参加できる支え合い、居場所作り
町会役員、行政書士として地域コミュニティなどの相談対応
会話をして親身になり、こまっていることに対応する
子ども食堂をしているので、食の提供。関係者へ連携する事。話を聞く事。一緒に活動する事で心のリフレッシュ
最初の受け入れ窓口であり、関係機関へつなぐ役割が果たせる
成年後見カフェを開き、様々なお話を伺っている

## ◆基本的方向④「気づいた困りごとを必要な相談窓口や関係者につなげる」

☆こんな声がありました☆

あつたらいいな・不足・課題
いざという時連絡できるところ
地域福祉コーディネーターの全地区配置
気軽な声掛けができるお年寄りの買い物代行
生活物資の調達が家の前でできたり、高齢者や障がい者、乳幼児は、何処に行くにも移動がネックになる
移動の手伝い、病院に行くときの送迎
専門職や周囲の人が気づいて配慮する
一人ひとりの困りごとが多岐にわたり困っている
気軽に相談できる場所が沢山できる
祝祭日の困りごと相談先

地域のつながりで気づいた困りごとのなかには、地域のなかで解決が難しいこともあるかもしれません。また、困りごとを抱えていることに気づいたが、自分では受け止められないような問題もきっとあるでしょう。そんな時は専門職が力になってくれます。

専門職は専門職同士しっかりと協力しあって地域からのSOSを受け止めます。本人が抱えていた課題が無事に解決できたあとは、再び地域のなかでゆるやかなつながりがあることで、安心した生活が送れるような地域を創りましょう。

できること・できていること・強み
解決に役立つだろう情報を提供し、相談に乗って、適当な相談窓口につなぐこと
傾聴と必要があれば関係機関にお繋ぎする見守り
地域公益活動の一つとして、買い物困難者に対する移送支援を実施しています
行方不明の方の捜索（その方の容姿の特徴や顔写真などが分かれば、デイサービスの送迎の範囲で探せます）
膠原病の友人の外出支援をしている
民生委員として身近な相談相手と様々な困りごとについて相談に乗り、相談内容に応じて専門機関に繋げます
地域住民の方達の生活上の困りごとや相談に応じて必要な情報提供や支援、関係機関にお繋ぎする活動をしています
その方の困り事を聞くことはできると思います。それを専門の方に繋げて、公的な支援が入る手助けになれば良いと思います
声をかける。相談窓口を一緒に探す、知っていればつなげる

## ◆基本目標2における【活動主体ごとの取組み】について

地域で取組めること (例)	専門職・企業・団体が 取組むこと(例)	社協が取組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の関わりの中で気づいた変化や困りごとに対し、まずは地域でできることを行う</li> <li>悩みや困りごとを、そのまま抱え込まない雰囲気をつくる</li> <li>地域では対応がむずかしい困りごとや課題を相談できる存在や専門職につなぐ</li> <li>課題解決後に、地域の中でゆるやかにつながり続ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の声を受け止める相談窓口として機能する（相談会・地域の居場所など地域から相談のできる機会づくりを含む）</li> <li>専門職や支援機関同士で連携し、困りごとの解決に取り組む</li> <li>課題が解決した後は、地域でのつながりに戻れるよう取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職や関係機関等とネットワークを形成し、協力して相談支援の体制を整える</li> <li>行政とも協力しながら、制度や事業の隙間を埋める調整を行う</li> <li>困りごとと支援機関をつなぐ調整役を担い、切れ目ない相談支援に取り組む</li> </ul>

『参加支援』領域

(3) 基本目標3 「互いに認め合い・受け入れ 「あなたらしさ」でつながろう」

社会とのつながりが持ちにくい人がいます。その人はなにか生きづらさやむずかしさを抱えて生きているかもしれません。強みもそういった部分も全てその人らしさ。お互いを認め合い、受け入れようし合える地域は、誰も取り残さない心豊かな地域だと思います。そんな地域と一緒に創っていきましょう。

◆基本的方向⑤「あなたの強みを生かしてつながる」ことを支える」

☆こんな声がありました☆

あつたらいいな・不足・課題
地域内での趣味、特技でサークル活動の場
既にできているグループに新しく入るのは大変。新しい人は必ず紹介。得意なことでつながる仕組み
頑なで人の話しに聞く耳を持たないと思われます。まずは、パンフレットお渡しぐらいしかないと
思います
男性同士の交流少ない?
誰でも参加できるプラットホーム
若いママパパとの交流会「温故知新」次世代へのつなぎ
まだまだ何か役割で活躍する機会、定年した高齢者が活躍できる機会

あなたが持っている興味・関心・趣味・特技・好きなこと、それらは全てあなたの強みです。それぞれの強みを生かして、無理なく心地よくあなたしくつながることができる場や機会を増やしていきましょう。

つながった先では、あなたの強みを求めている人がいるかもしれません。そんなときは、あなたの「できること」をお裾分けしてください。「できること」でつながる、支え合いの輪を広げていきましょう。

できること・できていること・強み
シニアのための体操インストラクター
パーキンソン病の人とつながる努力をしています
音楽、SDGs、幼児教育、心理学、ゲームなどをミックスさせて、様々なところで発信をしている
地域での異文化交流
囲碁・将棋テーマで男性の参加があった
外出の機会や交流の機会が少ない人向けのオレンジクラス
介護施設へ行きメイクサービス

## ◆基本的方向⑥「あなたを知るため まずは耳を傾け 支え合う」

☆こんな声がありました☆

あつたらいいな・不足・課題
ひきこもりがちの人が、気軽に立ち寄れて、安心しておしゃべりしたり、食事ができたり、体操したり、学べたりできるカフェが地域に欲しい
引きこもりの人が地域に出てお話ししやすいサロンがあつたらいい
不登校の子どもの居場所
介護のスキマ時間に出かけられる・ほっとできる場所
福祉の森のサロンや区役所の子ども支援で助けてもらいました。まだ十分な認知や受け入れ態勢が整備されていないと思います
その人を取り巻く助け合いの輪ができるといい
子どもの特性に合った子育てのできる社会
障がい当事者の理解
「わかってもらいたい」「知ってもらいたい」
“参加”が苦手な方に、困った時の相談場所が伝わるようなもの？

程度の差はあれど、人それぞれ生きづらさやむずかしさを抱えていると思います。それらはあなたの特性や特徴で、それも「あなたらしさ」。それぞれの「らしさ」をお互いに知るために、まずはお話してしましょう。そして周りの方のお話も聴いてみましょう。

もし、困難さや痛みに共感したならば、その人のために「できること」に想いを馳せられます。お互いに気にかけ合い、配慮し合える場や機会がたくさんある、温かい地域を創りましょう。

できること・できていること・強み
日本語指導が必要な外国人児童・生徒にボランティアで日本語と教科の指導をしています
子どもや障がい者(知的)の居場所作り
町会主催の盆踊り大会、認知症の高齢者が踊りに来られ感激しました
障がい者の方への理解を深め、共存、共学のため支援学校へ参加
皆の農園で認知症の方々が参加できる支え合い、居場所作り
認知症の方が家に入り込んでしまい、毎回本人宅へ送って行き、家族に引き取ってもらっています
高齢者や認知症のある方を地域で見守り
30～40代向け、認知症の啓発
認知症の家族を介護している家族の交流会
ちょっとワーク（軽作業）への障がい者就労のきっかけづくり

## ◆基本目標3における【活動主体ごとの取組み】について

地域で取組めること (例)	専門職・企業・団体が 取組むこと(例)	社協が取組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に参加して交流する</li> <li>・必要な人に関心を持つてもらえるよう呼びかけ、参加を促す</li> <li>・お互いを知り、認め合い、受け入れあう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を活かし、支援が必要な方の理解啓発の取り組みやセンターを養成する</li> <li>・活動の場や機会の提供、周知</li> <li>・地域活動の充実や専門的な対応が必要なときにサポートする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心や「できること」でつながる場や機会の創出とその活動支援</li> <li>・多世代・多文化交流の場や機会づくりと、理解・啓発のための福祉教育</li> <li>・地域の声を把握して発信し、支援や調整に活かす</li> <li>・誰もが自分らしくいられる活動や場を支援する</li> </ul>